

東京大学史史料室ニュース

第5号 1990・10・12

目 次

明治22年の帝国大学文書取扱規程 ……………	2
ボン大学文書館 ……………	4
受贈図書一覧 ……………	6
『東京大学史紀要』第8号刊行 ……………	7
東京大学史料の保存に関する委員会委員名簿 ……	7
史料室日誌抄録 ……………	8



東京医学校本館（明治9年竣工）

木造2階建。椽瓦葺の屋根には時計を四面に設けた塔屋が載る。明治44年1月、赤門脇に移築され史料編纂掛（現在の史料編纂所）が使用した。昭和44年3月理学部附属小石川植物園内に移改築され、昭和45年6月17日国の重要文化財に指定されている。この建物は東大百年を偲ぶ唯一の建造物であり、明治政府の工部省営繕局が設計した木造建築唯一の遺構である。

写真は、明治33年4月佛国巴里で開催された万国大博覧会出品のため作製された写真帖「東京帝国大学」（編纂発行 小川一眞）に掲載するため撮影されたものである。

東大の記録管理（1）

明治22年の帝国大学文書取扱規程

現在、本学事務局の文書管理は「東京大学事務局文書管理規則」（以下管理規則と略す）に従って行われている。昭和55年5月6日（1980）に規則第11号として総長名で新しく制定され同日施行されたもので、さらに、本誌第2号で紹介したように昭和63年6月17日（1988）に改正（規則第27号）、7月1日に施行されて現在に至っている。下位規則には「東京大学事務局文書の分類及び保存年限に関する細則」（昭和63年3月28日事務局長裁定）及び「東京大学事務局文書専決内規」（昭和55年6月1日総長裁定、以後数回改正）があるが、これらも管理規則の制定、改正に伴って設けられたもので、やはりそれまではなかったものである。

では、江戸時代から膨大な文書を処理し続けて来た本学の昭和55年以前はどうなっていたのであろうか。

一般に、それ以前は文書管理の規則はなく、

慣行に従っていたと信じられており、実際、55年の管理規則制定の際の「制定理由」にも「事務局における文書の管理は、その重要性にもかかわらず客観的な基準となる規定がなく、慣行によつて処理されてきたが、文書処理の手続きが各部・各課（主幹）不統一で合理的でないので、これを合理化するとともに、文書に対する責任を明確にするため、この規則を制定するものである。」と書かれている。

しかし、記録を探っていくと、『帝国大学第四年報』（明治22年1月—12月、1889）の「学規ノ部」に明治22年4月15日制定として「帝国大学文書取扱規程」の全文が見られる。また、明治22—23年（1889—90）の公文書綴り『検印録』（事務局庶務部文書、以下同様）には同規程の原議が残されている。決裁日、制定日の記入はないが、渡辺洪基総長と永井久一郎書記官の印が押されている。規程全文は下欄の通りである。『東京大学百年史』編纂過程で発見されたが、収録されなかった。

同規程には、外部と学内の文書のやりとりが書記官室を経由して行われることが示されている。書記官室は、明治19年（1886）に帝

帝国大学文書取扱規程〔明治22年〕

〔下線は引用者による〕

- 第一 本学ニ到達スル文書ハ凡テ書記官室往復主任ニ於テ接受シ之ヲ開封シ件名番号等ヲ簿冊ニ記入シ書記官ノ査閲ニ供スヘシ
- 第二 書記官ハ其文書ヲ査閲シ事例規ナキカ又ハ重要ナリト認ルモノハ之ヲ総長ノ閱ニ供シ其他尋常ノ件ハ主務ノ処ヲ指示シ之ニ檢印シテ往復主任ニ交付シ之ヲ配付スベシ
- 第三 総長親展ノ文書ハ封皮ノ上ニ記号シ記簿ノ後直ニ総長又ハ書記官ニ送付スヘシ
- 第四 各部局又ハ各職員宛ノ文書ハ往復主任ヨリ直ニ其部局又ハ職員ニ送付スベシ
- 第五 前二項ノ文書ニシテ至急ヲ要スルモノハ宿直ニ於テ之ヲ接受シタルトキ宿直ヨリ直ニ送付スルコトアルベシ
- 第六 凡ソ往復主任ヨリ送付スル文書ハ送

付簿ニ受領者ノ檢印ヲ要スヘシ

- 第七 各部局主長ハ文書ヲ受領シタルトキハ速ニ処分案ヲ起草シ総長ノ決裁ヲ乞フベシ
- 第八 各部局ニ於テ文書ノ処分渋滞スルトキハ書記官ハ其事由ヲ調査シテ総長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第九 各部局ニ於テ処分案ヲ起草シタル文書ニシテ他ニ発送スヘキモノハ決裁ノ後起草者ニ示シ書記官室ニ於テ浄書シ計算書統計表ノ類ハ起草ノ部局ニ於テ浄書シ往復主任ヲ經テ之ヲ発送スヘシ
但 処分案ノ原案ヲ裁可セラレタルトキハ之ヲ起草者ニ示サスシテ発送スルコトアルヘシ
- 第十 各部局ニ於テ処分案ヲ起草シタル文書ノ処分ヲ了シタルトキハ往復主任ヨリ一応之ヲ其部局ニ送付スヘシ
- 第十一 各部局ニ於テ処分完結シタル文書ハ直ニ往復主任ニ廻付シ往復主任ハ之ヲ記録主任ニ移スヘシ

国大学が誕生した時に庶務課を改組して設けられたもので、明治45年（1902）に庶務課に戻り、昭和34年（1959）から庶務部となる(1)。また、起案文書を外部に発送するまでの文書の流れが定められているほか、処分完結の文書は記録主任において類別して集めて簿冊とし、書記官が保管することとされている。

原議を見て興味深いのは、内枠に示したように起案の段階では簿冊の保管を図書館に委ねるという発想があったことである。しかし、それは成文となる過程で削除されてしまい、代わって第十二に書記官が保管するという部分が付け加えられている。今日、アーカイヴズを目指している東京大学史史料室が、附属図書館と別組織であるように、明治22年においても既に公文書保管は図書館と今一つなじまないものであったらしい。

ではこの規程はいつ頃まで生きていたのだろうか。はっきりしたことは今後の調査に待たねばならないが、それを探る手掛りとなる文書を、筆者は2件見出した。

1つは、明治37—39年（1904—06）の庶務部公文書綴り『学校、病院、郡区役所、警察

第十二 処分完結ノ文書ハ記録主任ニ於テ之ヲ類別彙纂シテ簿冊ト為シ書記官之ヲ保管シ他日ノ参照ニ便ナラシムヘシ
第十三 各部局其名義ヲ以テ処分スル文書ハ各其部局ニ於テ此規程ニ準シテ便宜之ヲ保存スベシ

起案段階で第十二、第十三の間であって、決裁までに削除された部分は以下のとおり。その際の上記第十二の下線部分が加筆されたとみられる。

第十二 文書ノ簿冊ヲ為シタルモノハ記録主任ヨリ図書館ニ廻付シ同館管理ハ其保管ノ責ニ任スヘシ
但 日常事務上参照ニ必要ナルモノハ図書館ヨリ借受シテ之ヲ書記官室ニ備置スベシ

出典：『検印録』（F—4、明治22年の部、99丁以下）

署往復』（B—38、明治39年の部、54丁以下）中の京都帝国大学との往復文書である。明治39年2月1日付けで、京都帝大書記官は東京帝大書記官に宛てて、京都帝大の記録編纂上参考にしたいので、東京帝大の記録編纂に関して規程等が制定されていれば、写しを送って欲しいと依頼して来ている（文書番号なし）。それに対して東京帝大書記官は、2月9日送達文書（東京帝国大学坤六六号）で、記録編纂に関する成文の規程はないが、「文書取扱規程」は制定しているので参考のために送るとしている。残念ながら送付した規程の控えが添付されていないので内容が確認できないが、名称から見て、明治22年の規程か、もし改正があれば改正版が送られたものと思われる。京都大学が所蔵する公文書綴りを探せば見つかるのではないだろうか。文書取扱規程はともかく学内で生きていたようである。

もう1つは、昭和5年（1930）の庶務部公文書綴り『官庁往復』下巻（B—64、373丁以下）中の旅順工科大学との往復文書である。昭和5年5月5日付けで、旅順工科大学庶務課は東京帝大庶務課に宛てて、同大学の執務上の参考にしたいので、東京帝大の書類保存規程かそれに類似の内規等があったら写しを送ってほしいと依頼して来ている（文書番号なし）。これに対して、東京帝大庶務課は、5月15日発送の文書（庶第一、三一三号）で、現在改正方を調査中だが現行内規を参考のために送るとしている。これも送付した規程の控がなく、確認できないが、現在知られている範囲の資料ではやはり明治22年の規程しか該当しない。しかし、書記官室も20年近く前の明治45年に庶務課になっているのだから、今さら改正しようというのではあまりにも遅い。どうやら、この頃には規程に則った文書管理はなされなくなっていた可能性が高い。そしてついに改正されずに規程が忘れ去られ、文書管理は慣行に任されたままになってしまったのではないかと筆者は今のところ推定している。

（大学院教育学研究科 所澤 潤）

注(1) 『東京大学百年史』部局史四、1031、1042、1077頁

世界の大学文書館（3）

ボン大学文書館

マーガレット・メール
(Margaret Mehl)

沿革

ボン大学 (Rheinische Friedrich-Wilhelms-Universität) は1818年にプロイセン王ヴィルヘルム三世 (Wilhelm III) によって創立されたが、その前身は、マックス・フリードリヒ選帝侯 (Max Friedrich) の下で大臣ベルデルブシュ (Belderbusch) が1777年に創立したマクシエ・アカデミー (Maxische Akademie) に遡る。同アカデミーは1786年に大学となったが、1794年のフランス軍侵入で1798年に閉鎖されたものである。創立の1818年、プロイセンの文部大臣から大学督学官に宛てられた書簡には、“Universitätsarchiv”の最初の記述が見られるが、それは大学文書館ではなく記録保管所であった。その後は記録保管が大学督学官と大学学長の2カ所で行われたが、本格的な文書館はまだ設けられなかった。

文書館の設置は、1927年に文学部長の提案で評議会が決定したが、実現せず、1943年の125周年の際にも図られたが、やはり実現しなかった。しかし、その後1947年にヴァルター・ホルツマン教授 (Walther Holtzmann) が大学の沿革記録者兼アーキビスト (“Chronist und Archivar der Universität”) に任命され、1953年にマックス・ブラウバッハ教授 (Max

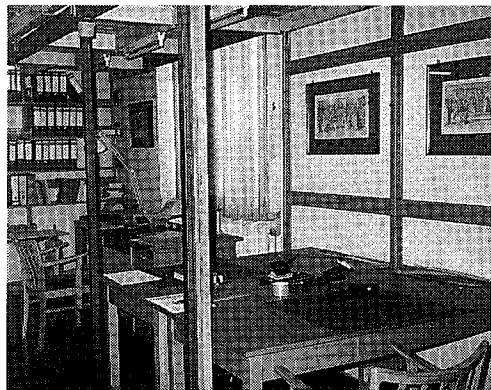
Braubach) がその後任となった。同職は、歴史学教授と兼任である。1957年に学生助手が付けられた。ブラウバッハ教授は、同職についてから、文書館設立を提案し、1961年に至って、やっと独立した学長直轄機関として文書館が誕生した。その年、それまでブラウバッハ教授が大学の所々から収集して来た資料が、旧選帝侯宮廷にある大学本館の北塔に移動された。現在に至るまでそこに保管されている。150周年祭の1968年まではその準備に忙殺され、文書館の一般的業務が軽視されたが、その後は建物の建設や拡大が進められた。71年に学内行政が電子情報処理に移行し、それにともない、71年以前の書類は文書館に移置された。またその後も、事務局の文書保管場所の不足もあって、書類が非常に早く文書館に移置されることになった。事務局から返却を要求されることもあるほどである。職員は何回か増員され、現在は常任館長 P・シュミット博士 (Akademischer Oberrat, Paul Schmidt) の他に学術助手2人と学生助手3人である。沿革記録者兼アーキビストは、歴史学教授 R・コッチェ教授 (Raymund Kottje, 専攻は中世史、歴史学補助学 Historische Hilfswissenschaften、文書館学) である。

所蔵文書

大学文書館では、ボン大学設置の1818年以降の文書を所蔵している。1798年までの旧大学の文書は総合図書館とライン・ジーク地方 (Rhein-Sieg) の文書館 (Archiv des Rhein-Sieg-Kreises、在ジークブルク Siegburg) にある。しかし、1818年以降の文書も、1944年



旧選帝侯宮廷北塔



閲覧席

に旧選帝侯宮廷が空襲を受けたため、大量に失われ、欠けているものも多い。中でもまだ事務で現用されていた20世紀の書類の被害が大きかった。ブラウバッハ教授は、前任のホルツマン教授から資料がほとんど燃えてしまったので仕事が楽になったと言われたものである。もっとも、それにもかかわらずブラウバッハ教授は、その時期についてもかなりの量の文書を集めることができ、整理が進むのにもなって、もう存在しないと思われた文書さえ発見された。

現在の所蔵文書の概要は次のとおりである。

1. 学長文書

評議会の記録(1818—1906)、学長と学部長の選挙関係(1819—1870, 1880—1902)、他大学と学会との関係、試験委員会(1818—1907, 1938—1940)、調査(1819—1865)、儀式・祭典(1821—1895)、講義表(1818—1895)、授業録(1819—1870)、処分

2. 大学督学官文書

大学創立・法規・沿革、財産・贈与、国家・地方自治体との関係、他大学・学会との関係、大学督学官・学長・評議会・大学裁判権、学生関係、大学行政・財務、人事関係、雑、個々の人物に関する重要な文書

3. 事務局文書(入学・卒業・退学関係)

4. 一部の学部文書(新教神学部・医学部・文学部・数学自然科学部)

5. 1945年以降の文書(一部は未整理)

人事・行政、評議会・委員会、退学・卒業、全ドイツ学生自治会

6. 特殊コレクション

学生運動期以降のびら、教授肖像、教授関係資料

7. 図書

書架にして約200メートル。参考書、大学・学生履歴・学友会・教授履歴などに関する文献

8. 目録

プロイセン・ドイツ文部省のボン大学関係文書を所蔵する文書館(Merseburg, Düsseldorf, Berlin-Dahlem)の目録抄

機能

ボン大学文書館は、文書の整理保存の他、多彩な機能を果たしている。1つは毎年10月

18日から始まる大学の一年度、又は学長在任期間(2年以下)についての沿革記録執筆である。もう1つは文書の公開、利用者の相談・照会に応じる調査などである(ただし非公開期間は通常の文書で30年、人物考課書類の場合は50年或は生年から100年である)。その他、展示・記念祭の準備、大学150年史編集、“Academica Bonnensia”(ボン大学文書館紀要)の刊行など、いわゆる「大学の記憶」という機能に関する職務である。しかし、以上のような本来の機能の他、70年代の学生数の増加によって、事務局の事務分掌の一部をも遂行しなければならなくなった(例えば年金保険決定のための卒業生の在学証明書の発行)。そのように本来の文書館業務以外のことには時間が割かれることが問題である。

参考文献:

現館長の Paul Schmidt 博士から提供して頂いた Reinhard Schöbitz 氏の1983年のゼミ・レポートを参考にした外、以下の文献を参考にした。

Schmidt, Paul: Das Archiv der Rheinischen Friedrich-Wilhelms-Universität Bonn.

In: *Der Archivar* 1962, pp.118-9

Braubach, Max: *Kleine Geschichte der Universität Bonn*. Bonn, 1968

付記: Margaret Mehlさんは、ボン大学大学院学生で、1987—89年に本学大学院人文科学研究科国史学研究室に外国人研究生として在籍し、日本における近代的歴史学の成立について研究していらした方です。東京大学史料室をたびたび利用された縁でこの原稿を寄せて下さいました。(東京大学史料室)

受贈図書一覧（平成元年5月～平成元年10月）

- | | | | |
|--|---------|--|----------|
| 宇佐美・下賀茂寮四十年通史
同編集委員会 | 昭和62年8月 | 生産研究5月号（40周年誌）
同研究所 | 平成元年5月 |
| 江戸時代におけるくすり・医・くらし
—徳川理財会要の抜粋—
田辺普 | 平成元年3月 | 東京大学生産技術研究所年次要覧 第37号
同研究所 | 平成元年6月 |
| 東京大学教育学部紀要 第28巻
同学部 | 平成元年3月 | 社会科学紀要 第38号
東京大学教養学部社会科学科 | 平成元年3月 |
| 近代日本研究 第5巻（1988年）
慶応義塾福沢研究センター | 平成元年3月 | 海外子女教育文献情報システムの開発研究
東京学芸大学海外子女教育センター | 平成元年3月 |
| 村上定自叙伝・諸文集 解説
慶応義塾福沢研究センター | 平成元年3月 | 1989年度東京学生〈進路資料室〉
利用の手引 | 平成元年4月 |
| 東大産科婦人科学教室百年史
同編集委員会 | 昭和59年3月 | 東京学生〈進路資料室〉 | 平成元年4月 |
| 東大産科婦人科学教室百年史
同編集委員会 | 昭和59年3月 | '90東京大学就職案内《増刊》
東京学生〈進路資料室〉 | 平成元年4月 |
| 沼津市博物館紀要 13
沼津市歴史民俗資料館 | 平成元年3月 | '90東京大学就職案内
東京学生〈進路資料室〉 | 平成元年6月 |
| 占領教育史研究 第1号
明星大学占領教育史研究センター | 昭和59年7月 | 創立百年史
筑波大学附属中学校・高等学校 | 昭和63年10月 |
| 占領教育史研究 第2号
明星大学占領教育史研究センター | 昭和60年7月 | 東京大学理学部附属臨海実験所年報
（創立100周年記念号） | 昭和62年 |
| 占領教育史研究 第3号
明星大学占領教育史研究センター | 昭和61年6月 | 同臨海実験所
尾張のもめん —そのルーツを求めて—
一宮市博物館 | 平成元年4月 |
| 戦後教育史研究 第4号
明星大学戦後教育史研究センター | 昭和62年6月 | 稿本 早稲田大学百年史 第四巻 上
同大学 | 平成元年3月 |
| 戦後教育史研究 第5号
明星大学戦後教育史研究センター | 昭和63年3月 | 東洋大学創立100周年記念講演集
同大学 | 平成元年3月 |
| 戦後教育史研究 第6号
明星大学戦後教育史研究センター | 平成元年4月 | '90東京大学就職案内《企業研究ハンドブック》
東京学生〈進路資料室〉 | 平成元年6月 |
| Tokyo : Yesterday, Today and Tomorrow
東京都生活文化局国際交流部外事課 | 平成元年3月 | 石橋財団ブリヂストン美術館所蔵
レンブラント作品調査研究報告
石橋財団ブリヂストン美術館 | 平成元年 |
| Twenty-Five Tales in Memory of Tokyo's
Foreigners
東京都生活文化局国際交流部外事課 | 平成元年3月 | ギョースターヴ・クールベ展カタログ
日本放送協会 | 平成元年 |
| | | 石橋財団三十年史
石橋財団 | 平成元年4月 |
| | | 極東国際軍事裁判記録
「検察側証拠書類」目録 | 昭和46年3月 |
| | | 東京大学社会科学研究所 | |

山本病院—源流とその歩み		千葉県文書館	平成元年3月
山本病院	平成元年4月	早稲田大学史記要 第二十一巻	
中央大学百年史編集ニュース	第12号	同大学大学史編集所	平成元年3月
同大学大学史編纂課	平成元年6月	東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1	
会報 第25号		東京大学本郷構内の遺跡	
東京大学ホッケー部	平成元年	理学部7号館地点	
教養学部の四十周年 1949—1989		同遺跡調査室	平成元年3月
同学部	平成元年7月	九州大学七十五年史 史料編 上巻	
憲法構想		同大学	平成元年5月
日本近代思想大系9		九州大学七十五年史 史料編 下巻	
緑川 亨	平成元年7月	同大学	平成元年5月
総長室の1500日		追悼集 III	
森 亘	平成元年5月	一同志社人物誌 大正五年～大正十五年	
神奈川大学評論 第六号		同社史資料室	平成元年10月
同大学広報委員会	平成元年7月	横浜開港資料館紀要 第7号	
富士論叢 第34巻第1号		同資料館	平成元年3月
富士短期大学学術研究会	平成元年5月	吉村屋幸兵衛関係書簡 復刻版	
東洋大学百年史 資料編I・下		横浜開港資料館	平成元年3月
同大学	平成元年7月	応用微生物研究所は今…	
収蔵文書目録第二集		東京大学応用微生物研究所創立35周年記念	
鴨川市横渚 永井家文書目録		同研究所	昭和63年12月

『東京大学史紀要』第8号刊行

東京大学史史料室では、『東京大学史紀要』の第8号を平成2年3月に刊行配布しました。今号の主要な内容は次のとおりです。

論説

阪口 豊(理学部教授)：東京大学の土台—本郷キャンパスの地形と地質—

研究ノート

所澤 潤(元室員)：大正十一(一九二二)年における大学入学者選抜の統一化
照沼康孝(文部省)：東京帝大経済学部問題と長与又郎—長与又郎日記を中心に—

資料

中野 実(元室員)：平賀讓日記—昭和十三年十二月～昭和十四年十二月—
照沼康孝・中野 実：長与又郎日記昭和十三年八月

東京大学史料の保存に関する委員会委員名簿

委員長	原	朗	(経)
委員	高橋	進	(法)
〃	養老	孟司	(医)
〃	国府田	隆夫	(工)
〃	伊藤	隆	(文)
〃	高橋	景一	(理)
〃	田中	学	(農)
〃	鳥海	靖	(教養)
〃	三浦	逸雄	(教育)
〃	古賀	憲司	(薬)
〃	武田	展男	(先端研)
〃	平石	直昭	(社研)
〃	黒田	晴雄	(図書館)
〃	青柳	徹	(事務局)
〃	石上	英一	(史料)
〃	益田	宗	(史料)
幹事	横澤	義雄	(庶務部)
〃	森谷	俊直	(経理部)

平成2年4月現在

史料室日誌抄録（平成元年9月～平成2年5月）

9. 6 水 4階昇り口に「東京大学史史料室」の木製表札をかける。
9. 9 土 史料室室内を害虫駆除。
- 9.14 木 『学内広報』63年度人事異動記録を整理。
10. 4 水 史料室5階図書室天井より水漏れ。特に被害なし。
- 10.17 火 史料室6階書庫天井より水漏れ。駒場農学校文書、テープ等被害。
- 10.18 水 事務局長、学生部長、庶務部長、経理部長、施設部長、庶務課長来室見学。
- 10.23 月 第17回東京大学史料の保存に関する委員会開催。
11. 2 木 史料室6階および7階より不用品搬出。
- 11.10 金 第87回史学会大会の史料展覧「史学会の百年」の展示品として『文部省往復』ほか8点貸し出し。
- 11.17 金 原室長、本室のセンター化につき総長と会見。
- 11.27 月 『東京大学史史料室ニュース』第4号発行。
- 11.30 木 南原繁元総長関係資料受け入れ。石井和夫氏より卒業アルバム（医学部、大正8年）受け入れ。
12. 4 月 『東京大学史紀要』第8号原稿業者へ入稿。
会津武家屋敷より2名来室見学。
- 12.19 火 東洋大学秘書課より1名来室見学。
- 12.20 水 テレビ朝日、テレビ放映用のため史料撮影。
- 12.25 月 韓国釜山商高歴史編纂委員会より1名来室見学。
- 1.22 月 第18回東京大学史料の保存に関する委員会開催。
大講堂改修工事に伴い工事終了までの期間、原則的に学外者に対する閲覧業務を中止することが委員会で決定。
2. 7 水 理学部地質学教室より小藤文次郎先生のナウマン講義ノート5冊借用しマイクロフィルム化。
- 2.19 月 国立国会図書館より1名来室見学。
- 2.19 月 会津武家屋敷より1名史料撮影のため来室。
3. 5 月 理学部阪口豊教授（東京大学史料の保存に関する委員会委員）より東大紛争関係資料受け入れ。
- 3.15 木 マイクロリーダー（キャノンPC-80）設置。
- 3.28 水 福武直関係資料受け入れ。
- 3.30 金 『東京大学史紀要』第8号発行。
- 3.31 土 所澤潤教務補佐員退職。
- 4.10 火 佐藤振五郎関係資料受け入れ。
- 4.18 水 大講堂改修披露式典にて史料室史料（加藤弘之日記等11点）を展示。
- 4.21 土
5. 8 火 名古屋大学より50年史編纂のため1名来室見学。
- 5.14 月 第19回東京大学史料の保存に関する委員会開催。
大講堂改修工事終了に伴い前回の委員会において決定された学外者に対する閲覧中止措置の解除を委員会で決定。
- 5.17 木 昭和初期の学生生活のビデオ受け入れ。

題字 森 亘前総長

東京大学史史料室ニュース 第5号

発行日：1990年10月12日（年2回刊）

編集・発行：東京大学史史料室

東京都文京区本郷7-3-1

電話（812）2111 内線2036

印刷所：よしみ工産株式会社

北九州市戸畑区天神1-13-5

Archives Section of the University of Tokyo